

職員が見た 被災地

3月11日に発生した東日本大震災。6か月が経過した今も大きな傷跡を残しています。氷川町では、「チーム熊本」の一員として、これまでに（9月30日現在）8人の職員が被災地（宮城県東松島市）へ赴き、支援活動を行ってきました。今回は、職員が見て・聞いて・感じた現地の様子を特集します。

想像を超える被害

活動を行ってきた職員が口を揃えて言った言葉です。家屋の倒壊による瓦礫の山、流された車や、漁船などの残骸、報道などで予備知識はあったものの、現状を目の当たりにし、ただ驚くばかりだったそうです。

人的支援

東松島市では、県と市町村の合同チームとして、市役所業務の支援を行っています。

市役所敷地内に建てられたプレハブなどを活用し、災害義援金申請受付や被災者生活再建支援金申請受付など、業務は多岐にわたります。早朝から多くの被災者の方が訪れ、涙を流しながら、震災当時の状況を話される方もいらっしゃいました。

第15陣の頃には、状況も落ち着きを見せ始めたものの、依然として、支援が必要な状況です。



▲仮設の受付会場

感謝の声

前述したように、市役所には連日多くの被災者の方が訪れ、長時間待たせることもしばしばあったにも関わらず、帰り際には「遠い熊本からありがとう。」などの感謝の声が多く聞かれました。



▲倉庫にはたくさんの支援物資



- 1 東松島市大曲地区航空写真
- 2 寸断された道路（大曲地区）
- 3 津波の脅威を物語る車の残骸（大曲地区）
- 4 流されてきた漁船（大曲地区）
- 5 6 倒壊した家屋（大曲地区）
- 7 東松島市野蒜地区航空写真
- 8 全壊した神社の屋根（野蒜地区）
- 9 津波を受け止まった時計（野蒜地区）
- 10 11 浜市漁港付近
- 12 日和山公園より見た石巻市
- 13 石巻市住宅街



▲支援業務にあたるチーム熊本の職員



▲東松島市役所内に設置された災害対策本部



職員の声

- 復興への見通しが立たないぐらいの状況を目の当たりにした。一日も早い復興を願う。
第9陣（5/11～5/17）総務財政課 岩本 聡志
- 手を付けていない所が多く、大変な状況ということを実感した。
第10陣（5/16～5/22）農地整備課 永田 満
- 苦情は一切なかった。どうにかして再建しようという懸命な姿と、自分たちへの感謝を感じた。
第11陣（5/21～5/27）建設下水道課 村上 孝治
- 地図との地形が異なっていて、震災の凄さを実感した。今を懸命に生きる被災地の方々の今後の復興を願う。
第13陣（6/4～6/15）総務振興課 千原 正資
- 高速道路の無料化が制限された時期と重なり、証明書を取りに来られる方が多かった。
第15陣（6/22～7/3）農業振興課 野中 俊志
- 震災から4か月近く経過していたが、ほとんど状況は変わらず、家族を捜される方の姿が印象的だった。現地の方の強さを感じた。
第16陣（7/1～7/12）健康福祉課 道永 拓史
- 実際に被災地に立ち、どのように避難や誘導を行えばいいのか考えさせられた。
第20陣（8/6～8/17）町民環境課 澤田 寛史
- 東松島市では、震災により平年の約20倍の瓦礫が発生、被害が大きかった沿岸部で大量の瓦礫が山積している状態を目の当たりにした時、震災の凄まじさを感じた。
第22陣（9/2～9/13）税務課 續 貴志